

平成 13 年度

包 括 外 部 監 査 の 結 果 報 告 書

【図書館運営について】

東京都豊島区包括外部監査人

目 次

包括外部監査の結果報告書

第1 外部監査の概要	1
1 . 外部監査の種類.....	1
2 . 選定した特定の事件.....	1
3 . 監査の対象部署.....	1
4 . 特定の事件を選定した理由.....	1
5 . 外部監査の方法.....	2
6 . 外部監査の実施期間.....	3
7 . 利害関係.....	3
第2 外部監査の結果	4
1 . 図書館施設の概要.....	4
2 . 外部監査の結果.....	6

包括外部監査の結果報告に添えて提出する意見

1 . 図書館運営費の推移	9
2 . 他区との比較	11
3 . 図書館の現状と特色作り	12
4 . 共通図書（複本）及び短命図書の削減.....	14
5 . 学校図書等の取扱拡大による一括購買効果の向上.....	16
6 . 延滞貸出図書等について	17
7 . リサイクル用図書の保存期間の検討	18

包括外部監査の結果報告書

第1 外部監査の概要

1. 外部監査の種類

豊島区条例第37号（東京都豊島区外部監査契約に基づく監査に関する条例）第2条に定める地方自治法第252条の27第2項に規定する東京都豊島区（以下「豊島区」という。）との包括外部監査契約に基づく監査。

2. 選定した特定の事件

1) 外部監査の対象

図書館運営について

2) 監査対象期間

平成12年度（ただし、必要な範囲で過年度に遡及）

3. 監査の対象部署

教育委員会事務局 中央図書館及びその他の図書館

4. 特定の事件を選定した理由

豊島区では、厳しさを増す財政環境へ対応すべく、「暮らし豊かに ところ輝く都市」の基本計画を策定し、さまざまな取り組みを行い、財政の転換を課題に行財政改革を推し進め、図書館サービスにおいては豊島区全域をカバーする目的で「半径700メートルに1館合計8館の図書館」を建設することとし、前記計画にて全館設置し、その充実を図った後期計画においても平成12年度で終了した状況でもある。

公立図書館は住民のために資料や情報の提供等直接的な援助を行う機関として、住民の需用を把握するよう努めるとともに、利用者に応じたサー

ビスを行うものである。従って、計画終了後における図書館運営に係る事業の効率性・経済性は、豊島区民の生涯学習に深い関連を有していると考ええる。

このため、図書館運営に関わる事務・事業を監査対象として、地方財政法第8条(地方公共団体の財産は、常に良好の状態においてこれを管理し、その所有の目的に応じて最も効率的にこれを運用すること)の観点から、管理事務の適正性、所蔵書籍の経済性、効率性等について検討する必要性を認めました。

5. 外部監査の方法

1) 着眼点

財産管理に関する事務手続が関係法令及び管理規程等への
の合規性。

蔵書の貸出・回収の適正性。

蔵書の購入・支出手続の適正性。

業者選定の適正性。

2) 主な監査手続

運営管理規則の執行状況

- ・ 東京都豊島区立図書館の管理運営に関する規則が適切に執行されているか。
- ・ 「豊島区立図書館資料分担収集・保存要領」が適切に執行されているか。

図書購入・管理手続

- ・ 閲覧用図書の購入
- ・ 「豊島区立図書館資料選定基準」が適切に執行されているか
- ・ 「豊島区立図書館資料除籍・保存基準」が適切に執行されているか。

外部委託の選定状況

- ・ 施設管理費に係る外部委託業者選定手続の執行は契約事務規則に準拠して実施されているか。

図書館管轄の人件費の妥当性

- ・ 「東京都豊島区教育委員会の非常勤職員に関する規則」が適切に執行されているか。

6．外部監査の実施期間

平成 13 年 7 月より 12 月まで

7．利害関係

包括外部監査の対象とした事件につき、地方自治法第 252 条の 29 の規定により記載すべき利害関係はない。

第2 外部監査の結果

1. 図書館施設の概要

1) 根拠条例及び収支状況

設置目的	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理保存し、広く区民の利用に供することにより教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。
設置根拠条例	東京都豊島区立図書館設置条例
平成12年度の重点目標	運営の効率化及び図書館奉仕員の採用
平成12年度収支状況	収入（教育使用料） 725千円 支出（図書館費） 1,126,700千円

2) 各図書館の状況

図書館名	開館日	住所	占有面積	蔵書数	職員数	併設施設
中央	昭和54年 6月	東池袋 5-39-18	2,873.6 m ²	202,200冊	常勤29人 非常勤10人	身体障害者 用施設、区 民集会室、 食堂等
駒込	昭和56年 8月	駒込2-2-2	951.7 m ²	73,225冊	常勤7人 非常勤6人	身体障害者 用施設、社 会教育会館
巢鴨	昭和43年 8月	巢鴨3-8-2	1,011.2 m ²	69,170冊	常勤7人 非常勤6人	身体障害者 用施設、食 堂
上池袋	平成5年 7月	上池袋 2-45-15	1,470.7 m ²	85,393冊	常勤8人 非常勤7人	身体障害者 用施設、
池袋	昭和61年 5月	池袋 3-29-10	1,332.9 m ²	91,409冊	常勤8人 非常勤5人	身体障害者 用施設、区 民集会室
雑司が谷	昭和62年 10月	雑司が谷 3-1-7	1,020.6 m ²	72,496冊	常勤7人 非常勤6人	身体障害者 用施設、教 育センター 等
目白	昭和56年 7月	目白 4-31-8	1,076.8 m ²	74,678冊	常勤7人 非常勤6人	身体障害者 用施設、 区民集会室
千早	昭和46年 6月	千早 2-44-2	1,142.6 m ²	72,052冊	常勤6人 非常勤7人	身体障害者 用施設、食 堂
合計			10,880.1 m ²	740,623冊	常勤79人 非常勤53人	

3) 利用者状況の推移

	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
登録率	44.9%	46.4	44.8	45.2	44.3
登録者数	105,190人	108,520	104,885	105,968	104,540
1日当り貸出	6,534冊	6,562	6,472	6,310	5,869
貸出冊数	1,757,712冊	1,701,316	1,702,003	1,709,983	1,631,511

注：平成12年度事業報告書より

<コメント>

最近5年間において、登録率及び登録者数に大きな変動はないが、1日当り貸出及び貸出冊数は減少傾向にある。

4) 過去3年間の事業費推移

(単位：千円)

費目	摘要	平成10年度	平成11年度	平成12年度
人件費等		847,128	838,857	820,558
中央図書館	図書購入費	35,386	34,285	33,392
	その他運営経費	7,521	9,874	7,661
	点字図書館経費	12,615	12,461	12,120
	その他の経費	47,393	64,707	48,384
	合計	102,915	121,327	101,557
地域館計	図書購入費	42,693	49,617	43,764
	その他の経費	120,104	147,140	104,045
	合計	162,797	196,757	147,819
電算運営経費		57,387	58,585	56,776
	総合計	1,170,227	1,215,528	1,126,700
注2 調整	工事請負費	15,524	51,961	17,777
	差引	1,154,703	1,163,567	1,108,924

注1．千円未満を切捨している。

注2．調整で請負工事費を控除しているのは、設備関連投資の影響を除く経常経費での比較を行うため。

2. 外部監査の結果

1) 運営管理規則の執行状況

- ・ 東京都豊島区立図書館の管理運営に関する規則（平成12年4月12日教委規則第25号）が適切に執行されているか。

同条項に規定する運用状況について、担当者への質問、関係書類の閲覧及び図書館内の視察を行った。

その結果、指摘する事項はない。

2) 図書購入・管理手続

「豊島区立図書館資料選定基準」が適切に執行されているか

図書館資料の選定基準に基づき発注図書の選定が適切に行われていることを確かめるため、担当者への質問及び関係書類の閲覧を行った。

閲覧用図書の購入手続が契約事務規則に準拠して執行されているか

平成12年度を対象に、購入を承認された図書が適切に発注され、発注した図書の検収が適切に行われていることを確かめるため、担当者への質問及び関係書類の照合を行った。

書籍購入業者選定は適切に行われているか

平成12年度における書籍購入業者の選定が適切に行われているこ

とを確かめるため、担当者への質問及び関係書類の照合を行った。

「豊島区立図書館資料除籍・保存基準」が適切に執行されているか。

平成 12 年度における図書館資料除籍・保存手続が適切に執行されていることを確かめるため、担当者への質問及び関係書類を閲覧した。

「リサイクル事業実施要綱」に従って適切に執行されているか

リサイクル事業が適切に執行されているかを確かめるため、担当者への質問及びリサイクル書籍の保管状況視察した。

上記 ～ の結果、特に指摘する事項はない。

3) 外部委託の選定状況

・ 施設管理費に係る外部委託業者選定手続の執行は契約事務規則に準拠して実施されているか。

外部委託業者選定手続の概要を担当者から聴取するとともに、関係書類の閲覧を行った。

その結果、特に指摘する事項はない。

4) 人件費管理(図書館管轄の人件費の妥当性)

- ・「東京都豊島区教育委員会の非常勤職員に関する規則」が適切に執行されているか。

非常勤職員(図書館奉仕員)に勤怠管理及び終業時間の妥当性を確かめるため、担当者への質問及び関係書類(図書館奉仕員出勤状況報告書)の閲覧を行った。

給与の支給状況について勤怠状況に基づき計算されていることを確かめるため、担当者への質問を行うとともに関係書類の閲覧を行った。

上記 及び の結果、特に指摘する事項はない。

包括外部監査の結果報告に添えて提出する意見

平成 14 年 1 月 24 日付けの包括外部監査の結果報告書に関連し、以下のとおり意見を申し述べる。ここでは、包括外部監査を実施した結果、図書館運営に資するために有用と思われる事項を記載している。

1. 図書館運営費の推移

(単位：千円)

	平成 10 年度	構成比	平成 11 年度	構成比	平成 12 年度	構成比
< 人件費 >						
職員関係経費	846,785		760,581		703,031	
職員出張経費	343		310		163	
非常勤職員関係経費	-		77,966		117,363	
小計	847,128	74.0%	838,857	69.0%	820,557	72.9%
< その他の経費 >						
中央図書館管理運営経費	102,915		121,327		101,557	
駒込図書館管理運営経費	29,005		67,545		25,870	
巣鴨図書館管理運営経費	23,981		22,972		24,769	
上池袋図書館管理運営経費	24,747		24,511		22,711	
池袋図書館管理運営経費	25,979		25,851		22,651	
雑司が谷図書館管理運営経費	9,168		8,998		8,079	
目白図書館管理運営経費	24,970		22,622		23,619	
千早図書館管理運営経費	24,942		24,255		20,108	
小計	265,710	21.0%	318,084	26.2%	249,367	22.1%
図書館業務電算運営経費	57,387	5.0%	58,585	4.8%	56,775	5.0%
図書館運営費合計	1,170,227	100.0%	1,215,528	100.0%	1,126,700	100.0%

注：事業報告書より なお、数値は切捨て表示している。

< 増減コメント >

人件費は、図書館奉仕員（非常勤職員）の導入により減少傾向（18,269 千円減少）にある。一方、その他の運営経費は、図書館資料の購入抑制や経費節減により減少傾向にあるが、平成 11 年度の駒込図書館大規模修繕工事（約 42,420 千円）を除いても工事請負費等の修繕費の負担増により経費削減努力が相殺されていると見られる。今後、各図書館の設置年月からみると、維持修繕は増加していく傾向が見受けられる。

最近 6 年間の図書館費・図書購入費推移

(単位：千円)

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
豊島区民数(人)	236,009	234,465	233,865	233,887	234,638	235,962
豊島区決算額	92,503,831	91,388,317	90,317,262	101,216,139	98,859,987	92,314,789
図書館費 A	1,309,743	1,195,536	1,160,043	1,170,227	1,215,528	1,126,700
7年度対比	100	91.2	88.5	89.3	92.8	86.0
対決算額比	1.4%	1.3%	1.3%	1.2%	1.2%	1.2%
図書購入費 B	128,862	109,683	81,009	78,079	75,626	69,909
7年度比較	100	85.1	62.8	60.5	58.6	54.3
A/B	9.8%	9.2%	7.0%	6.7%	6.2%	6.2%
常勤職員数(人)	99	99	100	88	80	79
うち司書等(人)	25	27	30	27	20	20
区民1人当り:						
図書館費	5,550	5,099	4,960	5,003	5,180	4,775
図書購入費	545	468	346	334	322	296

注：図書購入費はひかり文庫および CD・ビデオテープ等視聴覚資料を除く。

<コメント>

平成 12 年度の区民一人当り図書購入費は、平成 7 年度と比較すると 45.7%減となっている。一方、図書館費では 13.9%の減となっている。

各図書館内訳

図書館名	設置年	総面積 (㎡)	閲覧席 数(席)	蔵書数 (冊)	貸出数 (冊)	図書館費 (千円)	資料費 (千円)	図書費 (千円)
中央	昭 52.9	2,873	212	202,200	323,150	280,110	31,040	29,381
駒込	昭 56.9	951	55	73,225	188,391	40,302	7,017	7,017
巣鴨	昭 43.6	1,011	124	69,170	183,701	30,238	7,106	7,106
上池袋	平 5.2	1,470	66	85,393	194,586	24,300	7,212	6,891
池袋	昭 60.10	1,332	56	91,409	192,031	25,658	8,008	8,008
雑司が谷	昭 62.6	1,020	55	72,496	182,478	9,705	7,022	7,022
目白	昭 56.3	1,076	78	74,678	181,417	25,605	7,099	7,099
千早	昭 46.3	1,142	115	72,052	185,757	23,613	7,177	7,177
計		10,880	761	740,623	1,631,511	459,531	81,681	79,701

注：13 年度東京都公立図書館調査票より 12 年度末のデータを使用。なお、上記図書館費、資料費および図書費は、当初予算額を記載

2. 他区との比較

	豊島区	中野区	杉並区	板橋区	練馬区
図書館数(館)	8	8	11	12	11
総閲覧席数(席)	761	310	641	663	576
総面積(m ²)	10,880	10,427	17,541	18,520	18,663
蔵書数(冊数)	740,623	950,911	1,868,778	1,292,581	1,357,998
人口(人)	235,962	293,509	502,801	496,761	646,580
1館当り:					
蔵書数	92,542	118,864	169,889	107,715	123,454
面積(m ²)	1,286	1,303	1,595	1,543	1,697
閲覧席数	95	39	58	55	52
人口(人)	29,312	36,689	45,709	41,397	58,780
区民1人当り					
蔵書数(冊数)	3.16	3.24	3.72	2.60	2.10
面積(m ²)	0.04	0.04	0.03	0.04	0.03
閲覧席数	3.2	1.05	1.2	1.3	0.9

注：各区作成の平成12年度事業報告書より

豊島区の1館当りの項目を他区と比較すると蔵書数及び面積が一番低く、閲覧席数及び人口が他区より良い状況にある。

しかしながら、閲覧席数が多いのは、区民に対する館内閲覧の場の提供を主体としたものであり、他区においては館内閲覧スペースを抑え蔵書量の確保、リファレンス・貸出を主体としていると推測される。

区民の潜在的な資料要求に応えるためにも蔵書数の量的・質的な拡大が必要である点および書架スペースの確保の点から、仮に図書館の再検討が行われるときには閲覧席のあり方を再検討することが求められる。

3. 図書館の現状と特色作り

公立図書館の蔵書形成方針について重要なポイントは、蔵書形成方針（収集方針）を明文化して公開することである。蔵書形成方針を明文化するという事は、単に選択者の選択基準の基となるという意味だけでなく、公開することによってその図書館の運営方針を住民に知ってもらうという大きな意味を持つ。

現在の豊島区立図書館の8館については、蔵書形成方針は共通の物があるが公開はされていない。

館名	分担テーマ
中央	郷土・行政資料、参考資料、外国語資料
駒込	高齢者福祉、大活字本
巣鴨	民俗・風俗、とげぬき地蔵に関する資料
上池袋	ヤグアダルト、ブックレット、西洋哲学・心理学、短歌・俳句・戯曲
池袋	東南アジアに関する資料
雑司が谷	女性・家族問題、都電に関する資料
目白	主な文学賞受賞作、日本近代文学・作家研究、ときわ荘に関する資料
千早	岩波文庫、岩波新書、中公新書

上記のような分担テーマ別の図書館運営を7年前及び前年度に検討されたが、明確な方針は現在確定していない。

現在、更なる電算化の検討が加えられているが、インターネット技術等を含む電算化が進めば進むほど図書館の設置場所の問題より、どのようなジャンルの蔵書を保有しているかが重要となり、より各図書館の特色を打ち出すことによる有機的な図書館運営を行うことが必要と考える。

現状の図書館の設置等の検討状況は、以下のとおり。

「望ましい基準」との比較

	望ましい基準 (10～30万人)	豊島区の現状	
		8館合計	中央図書館
延べ床面積 (㎡)	5,437	10,286	2,874
蔵書冊数	547,353	740,623	202,200
開架冊数	335,203	685,303	171,250
年間購入雑誌点数	615	852	191
資料費 (千円)	74,629	74,520	28,768
人口1人概算 (円)	550	318	-
人口1人年間貸出点数	10.0	8.2	-
職員数 (有資格者)	53(25)	140(53)	43(18)

<コメント> 豊島区の図書館設置状況を「望ましい基準」と比較した場合、十分基準を超えている状況である。(平成12年4月作成資料より)

図書館施設のカバー率

「公立図書館の任務と目標 解説」(注)による図書館評価のためのチェックリストにおいて「固定施設を中心とした半径1km圏で、自治体区域可住面積の何割をカバーしているか」の質問を豊島区にあてはめた場合、以下の様になる。

$$\text{算定式} : 3.14\text{k m}^2 \times \text{固定施設数} \div \text{可住面積} \times 100$$

$$3.14\text{k m}^2 \times 8 \text{施設} \div 13.01\text{k m}^2 \times 100 = 193.08\%$$

以上より約19割をカバーしている状況である。

(注)(社)日本図書館協会図書館政策特別委員会より

図書館図書の整備状況

「公立図書館の設置及び運営に関する基準について」(報告)において、図書資料の目標冊数は以下の様に計算される。

算定式：人口10万人以上60万人未満の場合「115,000冊に10万人を超える人口1人につき0.7の割合で累加した冊数」

$$115,000 + (234,638 - 100,000) \times 0.7 = 209,247 \text{冊となる。}$$

豊島区の場合の蔵書数は約740千冊である。

以上、図書館の設置状況等は十分である。一方、図書館費に含まれる維持修繕費負担の増加傾向と図書購入費の減少傾向を考慮すれば、図書館費を有効に活用し生涯学習に供する良質な資料・蔵書を確保・提供するため、1館当りのカバー範囲拡大などの観点から図書館の統合等を含む体制作りを視野に入れることが望まれる。

4. 共通図書（複本）及び短命図書の削減

市町村図書館は、住民のために資料や情報の提供等直接的な学習援助を行う機関と位置付けられる。

「豊島区立図書館資料選定基準」においての「基本的な指針」は利用者の要求を一番に掲げ「何よりも利用者の要求する資料を選定する」としている。このため、ベストセラーとなった図書を選定する傾向が強くなり、図書寿命の短い図書の購入に予算を投入することになる。更に、現在の図書館システムでは、複本を何冊有しているかの総合的に把握する管理は行われていない。また、複本を何冊まで購入するかの規定は無いことから、場合によっては8館合計の複本は膨大になる恐れがある。

区民が積極的に図書館を活発に利用してゆくことにより図書館の質的向上は無いとすれば、息の長い蔵書（ストック）の充実より流行の蔵書（フロー）を重視した現在出版されている短命図書の確保となる。しかしながら、図書館は現在買えない書籍を読むことが出来るストック的機能を重視した書籍の整備が必要であると考えられる。従って、数多くの複本を多数揃えることも大切であるが、限られた図書購入費のなかで次世代に引継がれる息の長い蔵書と短命図書との適切な指標、複本数の冊数限度等の基準を作成することが望まれる。

図書館費が減少傾向であるなか、図書購入は経済的・効率的に行われることが求められ、新聞・雑誌などの図書寿命が1週間や1ヶ月程度の購入に当っては、特に購入しなければならないようなものを除き選択収集対象・蔵書数を再検討することが望まれる。

なお、各図書館で購入されている新聞等は、以下のとおりであり、「望ましい基準」では新聞に関して「新聞の全国紙及び主要な地方紙等」とされている。

また、保存期間が各館統一されておらず、各館の購入誌も統一されていないことから整理統合し図書購入費抑制する必要がある。特に新聞においては、縮刷版が発行・購入される時期を考慮して、保管期間を検討することも必要と考える。

誌名	刊別・発売	中	駒	巢	上	池	雑	目	千
<新聞>									
朝日新聞	日刊								
東京新聞	日刊								
産経新聞	日刊								
日本経済新聞	日刊								
毎日新聞	日刊								
読売新聞	日刊								
日刊工業新聞	日刊								
日経流通新聞	週3回刊								
サンケイスポーツ	日刊								
スポーツニッポン	日刊								
日刊スポーツ	日刊								
報知新聞	日刊								
週間読書人	週刊	5							
図書新聞	週刊	5							
豊島新聞	週刊	永	1	1	1	永	1	1	1
公明新聞	日刊	1							
社会新報	週刊	1							
自由民主	週刊	1							
しんぶん赤旗	日刊	1							
民主	月刊	1							
ジャパンタイムズ	日刊								
人民日報	日刊								
東亜日報	日刊								
ハラルト朝日	日刊								
<新聞縮刷版>									
朝日新聞	月刊	永		10	3	永	5	5	3
日本経済新聞	月刊	永			3	永	5	5	
毎日新聞	月刊	永				永			
読売新聞	月刊	永	3			永			
<官報公報広報>									
官報	日刊	10	1	2		永	2	1	1
東京都公報	日刊	10	1	2	3	永	2	1	1
広報東京都	月刊	10				1			
都議会だより	不定期	10				1			
広報としま	旬刊	永				1			
? 好 TOSHIMA	隔月刊	永				1			
HELLO TOSHIMA	隔月刊	永				1			
としま区議会だより	隔月刊	永				1			

注:永:長期保存
 数値:年保存
 数値:ヶ月保存

5 . 学校図書等の取扱拡大による一括購買効果の向上

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」(報告)において、「～学校教育においても児童生徒の読書活動が振興されていることから、専門的職員を学校に派遣し、読み聞かせ等を行うことにより図書館への関心を高め図書館利用の促進を図るなど、学校との連携・協力の拡充を図ることが望まれる。」としている。

現状、学校図書と図書館図書の購入は、担当部署毎に行われている。図書館図書の購入は、一定の割引を得て行われている。

学校図書と区立図書館図書との重複の回避、児童生徒の要求を把握するためにも連携が必要であるとともに、学校図書館は独自で図書購入を行っていることを考慮すると、書籍の購入にあたり区立図書館による購入の方が割引率が高ければ、図書館を窓口として学校図書の購入を行うことにより割引効果を高めることが出来ると考える。

平成 12 年度の各学校の図書購入実績は、以下のとおりです。

(単位千円)

学校区分	購入額
小学校	10,059
中学校	3,853
合計	13,912

6 . 延滞貸出図書等について

平成 12 年度における各図書館の忘失状況は、以下のとおり。

	蔵書数(冊)	忘失数(冊)	忘失率(%)
中央図書館	188,638	3,276	1.74
駒込図書館	73,584	801	1.09
巣鴨図書館	69,097	1,146	1.66
上池袋図書館	84,264	903	1.07
池袋図書館	92,688	945	1.01
雑司が谷図書館	74,048	898	1.21
目白図書館	74,905	947	1.26
千早図書館	73,467	693	0.94
総計	730,691	9,609	1.32

注：平成 12 年度豊島区図書館忘失状況（平成 12 年度 特別整理結果）より なお、上記蔵書数は特別整理時の冊数である。

忘失資料とは、ア) 蔵書点検時に所在不明で引続き 1 年以上所在が不明なもの、イ) 貸出から 1 年以上経過した資料で転居先不明等により回収不能なもの及びウ) 盗難・紛失・災害などのため回収不能なものを言う。

延滞貸出図書に対する手続は適正に実施されていると評価されるが、忘失図書を抑える点から延滞貸出図書に対して以下の事項に留意する必要がある。

- 1 . 電話対応等の結果が、滞留リスト上にメモ程度の書き込みになっており、担当者以外の職員がフォローできない状況にある。従って、フォローアップを誰でも出来るような報告様式に変更し効率的に滞貸出図書の状況を把握できるように改善することが望まれる。
- 2 . 忘失資料の取扱で「貸出から 1 年以上経過した資料で、転居先不明等により回収不可能なもの」としているが、実際の運用では 2 年連続して不明なものとして扱われている。正確な蔵書数を把握するため及び追加的回収コストを抑えるために、適正な運用が求められる。
- 3 . 除籍資料の扱いで「年間 5 回以上の貸出予測」があるものは保存

対象となるとしているが、実際の運用では過去 1 年間の貸出実績が 5 回以上のものを保存対象としている。書架スペースの有効な活用を考慮すると、今後の貸出予測に基づいた蔵書評価を行うことが求められる。

7. リサイクル用図書の保存期間の検討

蔵書形成のサイクルは以下の様になる。

蔵書評価 選択収集 蔵書評価 除架除籍

リサイクル図書とは、上記のサイクルにおける除架除籍された資料のうち区民・学校等で再利用される図書をいう。

リサイクル図書の扱いは、各図書館で相違している。巣鴨図書館においては書架にリサイクル図書が並べられ希望者が適時持ってゆく体制となっているが、中央図書館では定期的のリサイクル市を設ける体制となっている。

巣鴨図書館では地下 1 階の部屋・中央図書館では車庫・上池袋図書館では未利用の部屋がリサイクル図書保管に当てられている。除架・除籍されリサイクルに掛けられる図書の管理において、その保管スペースは非常に多くの場所を必要としているのが現状である。書架スペースを確保する目的からリサイクル図書の常設コーナ方式とリサイクル市方式などを組合せ、リサイクル用図書の保管スペースを抑制し、書架利用できるスペースを生み出すことが望まれる。

平成 12 年度の購入、除籍及びリサイクル実績は以下のとおり。

	購入(冊)	除籍(冊)	リサイクル(冊)
中央図書館	10,823	17,791	6,993
駒込図書館	3,906	5,391	4,135
巣鴨図書館	3,627	4,907	3,338
上池袋図書館	3,651	1,180	
池袋図書館	3,216	5,580	1,364
雑司が谷図書館	3,016	7,512	3,092
目白図書館	3,100	4,105	5,637
千早図書館	2,792	6,577	4,737
総計	34,131	53,043	29,296